

来週の「売り物」記事はこれ



2011年5月6日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

地震保険ってどんなもの？ くらしナビA面 10日（水）

東日本大震災で、改めて注目が集まっているのが地震保険です。震災後、申し込み希望者は増加しているようですが、一般にはまだなじみが薄い地震保険の仕組みや特色について分かりやすく紹介します。保険料の負担をやりくりする方法についてもお伝えします。



お年寄りなどが、口から食事をとれなくなったら？

くらしナビA面 13日（金）



胃につながる管をおなかの表面から通して直接栄養を補給する「胃ろう」。鼻から管を通す「経鼻栄養」より負担は少ないとされますが、さまざまな問題もあります。体の不自由なお年寄りなどが口から食事をとれなくなったらどう対応すべきか、考えます。

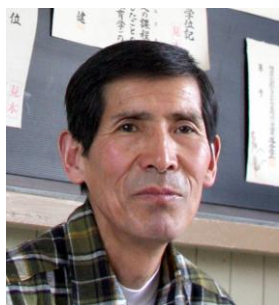
第66期本因坊決定戦七番勝負 第1局 11、12日

本因坊道吾（どうわ）＝山下敬吾九段（32）＝写真右＝に羽根直樹九段（34）＝同左＝が挑戦する、第66期本因坊決定戦七番勝負（毎日新聞社主催、大和証券グループ協賛）の第1局が11、12日、松江市の「佳翠苑皆美」で行われます。両者の対決は、昨年に続いて2回目。前回タイトルを奪取した道吾は、今回は初防衛を目指します。一方、羽根はタイトルを奪い返し3度目の本因坊位を狙います。攻めの道吾か、受けの羽根か。両雄の激突です。



ロングインタビュー「時代を駆ける」

有機農業40年の金子美登さん 10日から2週・10回



埼玉県小川町の金子美登（よしのり）さん（63）＝写真＝は約300年続く農家の長男で、妻と「霜里（しもさと）農場」を経営し、NPO法人「全国有機農業推進協会」の理事長を務めています。

化学肥料や農薬に頼らない有機農業を始めて40年。この節目の年に、日本を根底から揺るがす東日本大震災が起きました。エネルギーや食糧自給の問題が問われる今、金子さんは、これまで自身が取り組んできた「有機農業を核としたむらづくり」が地域再生の一つのモデルになると提唱します。日本の有機農業の父と呼ばれる一楽照雄さんや、『複合汚染』の作家・有吉佐和子さんらとのエピソードも交えて。

連載「泣き虫先生」からの伝言

— ラグビー名指導者が語る教育論 —

10日から

ラグビーの名指導者で「泣き虫先生」の愛称で知られる山口良治さん=写真=が、無名だった伏見工高を日本一に導いたのは30年前。その道りをモデルとしたテレビドラマも人気を得ました。山口さんは68歳になった今も、同高の総監督として、ラグビーを通じた教育に情熱を注いでいます。全国を回りながら熱く語る指導、育成の経験とは、どんなものか。運動面の企画「インサイド」で、克明に紹介します。10日から5回の連載を予定。



当代一の読み手を選ぶ

「悲しみを乗り越える」ためのこの一冊

夕刊特集ワイド面 11日(水)



あまたの命が奪われた東日本大震災。終末観すら漂う福島原発の事故は、いまだ終息の見通しすら立っていません。日本の安全神話は粉々に崩れ、戦後日本のプライドのより所だったはずの「技術立国」すら幻影だったことが明らかになろうとしています。列島を覆う大きな悲しみと、言い表せぬ不安……。こんな世情だから、心の寄る辺となる何か欲しい——と、多くの方が感じているのではないのでしょうか。現代日本の優れた読み手として知られる、作家の池澤夏樹さん=写真右、柳田邦男さん=同左=らに、沈んだ心に効く「一冊」を選んでもらいました。

“知りたいが分かる、が”がモットーの「特集ワイド」に、ご期待下さい。

紙面事情などにより掲載日が変更になることがあります。